	令和6年度 重点目標	学校自己評価		令和6年度 振り返り
	本年度の重点取り組み目標	分掌内	分掌外	成果もしくは、改善の方策
進路指導部	生徒の進路選択、進路目標の実現のためのサポート体制を充実させる。	3.45	2.61	進路関係の書籍(赤本など)の利用を中心に、進路指導室の利用が増えた。以前から計画していた『進路の手引き』を発行することができた。
	スタディーサポートや学びの基礎診断を生徒の進路選択のために有効に活用する。	2.85	2.45	スタディーサポートや学びの基礎診断の位置づけや実施について整理し、明確にする必要がある。
	進路指導の年間計画の検討・改善を行う。	3.00	2.36	進路指導の年間計画の検討と整理を行う。
特色教育推進部	校内組織をはじめ、運営指導委員会やコンソーシアム委員会の協力のもと、新学科のカリキュラムの研究・開発を行う。	2.50	2.91	年3回ずつ運営指導委員会とコンソーシアム委員会を開催し、実施した教育活動への指導・助言や連携協働活動の提案などを受け、今後の教育活動の決定や改善点を確認することができた。校内組織においては拡大組織的な、より多くの職員を巻き込んだ活動とまで至っていないことが今後の改善点である。
	中学生並びに保護者、地域へ向けた新学科の広報活動を行う。	3.00	3.00	市内全中学校へ訪問し、学科説明会のリーフレットを配布し、単独の学科説明会を2回、オープンハイスクールを3回実施し、参加中学生及び保護者へ説明するなど広報活動を行った。中学校の先生の参加も呼びかけたが、参加者は少なく、中学校の先生方に新学科の内容について周知していくことが今後の課題である。
	本校職員の探究活動に関する知識・技能の習得並びに向上のための職員研修や先進校視察の情報共有を行う。	2.00	2.96	年間2回の職員研修を実施し、探究活動への理解は深まった。更なる研修の機会を継続して持ちたい。先進校への視察も非常に有意義であった。事後の報告の場をもち、情報を共有する工夫が必要である。また、今年度は一部の職員で学ぶことが多かったが、来年度はより多くの職員で先進校の取組を見れるよう改善したい。
保健部	各学年、各部と連携をとり、生徒の対応をチームで行っていく。	3.00	3.32	多岐にわたる悩み(友人・家族関係、進路、性格等)に対応できるよう、担任だけでなく、関わりのある部署などとも情報を共有し、生徒を多角的に捉えてサポートできるように心掛けた。
	生活習慣の確立と自己管理能力の育成	3.00	3.06	来室を機に、生活習慣について聞き取り、改善できること等を助言をした。また、「ほけん便り」を毎月発行し、正しい知識の習得にも心掛けた。
	快適な学習環境の整備	3.00	3.00	学校薬剤師と連携をして、プールや食堂、教室等におけるアドバイスをいただいた。建物や物品の老朽化が進んでいる部分もあるため、怪我につながるこないよう、点検をこまめに行うなど課題がある。